

平成28年度 熊本市立千原台高等学校 学校評価 自己評価

1 学校教育目標						
(1)志を持って学び、社会生活に必要な知識や技術及び適切な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に富む人材を育成する。 (2)心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することのできる人材を育てる。 (3)自主的、自立的的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことのできる賢くたくましい人材を育成する。						
2 本年度の重点目標						
(1) 日々の教育活動 ア スローガン 『志を持って学び、心豊かで、賢くたくましい人材の育成』 イ 豊かな人間性の育成 ウ 確かな学力の向上 エ コースの特色を生かす教育活動の充実とキャリア教育の推進 オ 健やかな体の育成 カ 学校・家庭・地域社会の連携及び教育環境の整備						
(2) 重点項目 ア 基本的な生活習慣の確立と爽やかな挨拶の励行 イ 学力の向上及びキャリア教育の充実 ウ 読書活動の推進 エ 部活動の振興 オ ボランティア活動の推進 カ 教育課程及び評価の工夫 キ 学校評価及び授業評価等の改善						
3 評価項目及び評価						
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 5 段階	成果と課題
学校 経営	学校の教育目標の達成に向けた取組の充実	学校目標の理解	生徒、保護者へ学校の教育目標の周知・徹底を図る。	・1学期の始業式、清爽会総会を通じて周知を図る。 ・ホームページへも掲載し、保護者の理解を進める。	3	広報物やHP等に掲載し、集会等においても教育目標の周知につとめた。今後も更に掲示等の工夫が必要である。
		学校目標へ向けた取組の具体化	職員一人一人が学校の教育目標を念頭に、それぞれの目標を設定する。	・人事評価の育成面談等を通じて、教育目標への理解を深め、具体的な取り組みを促す。	3	期首面談時に目標を意識した取り組みを促した。新人事評価制度もスタートしたので、より具体的な評価目標設定を徹底させる必要がある。
学力 向上	生徒の基礎学力の向上	基礎学力向上	地元大学への一般入試で合格できる学力を養成する。	・外部模擬試験等を活用して、各教科で到達目標を設定し、学力状況をチェックする。	3	1・2年生が年に2回の模試に取り組み、学力状況を把握するとともに学校生活や家庭生活での課題も見えてきた。基礎力養成に向けては、授業や課外等の取り組みを今後一層充実させる必要がある。
		学習習慣の確立	毎日1時間以上の学習時間を確保する。	・家庭学習時間調査を実施し、生徒に応じた個別指導を行う。 ・家庭学習を促すための課題を課す。 ・休業期間中の課題を整理し、課題テスト等を通じて、学習をうながす。	2	学習習慣の確立、学習時間の確保のため、朝課外や土曜講座等の実施を行ったが、生徒の家庭学習時間の確保や習慣化に至っていない。学力を向上させるためには、授業や課題のあり方を含め大きな課題であり、何らかの対策を打ち出したい。
進路 指導	生徒の進路実現	推薦入試の合格率向上	推薦入学者の合格率100%を達成する。	・進路別課外を通して基礎学力の向上を図り、全職員による小論文、面接指導に取り組む。 ・進路別の模擬試験を活用し、学力の定着状況を把握し、課外指導等に活かす。	3	全職員協力のもと小論文、面接、課外に取り組むことができたが、指導内容や姿勢についてはよりいっそうの工夫が必要である。合格率100%の目標は達成できず、昨年同様数名の不合格者がいる。その生徒は一般入試や志望校変更で合格に向けて取り組んでいる。

		就職内定率の向上	学校推薦による就職希望者の内定率100%を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体のガイダンスやセミナーを活用し、生徒の勤労観を育て、就労意欲を高める。 全職員による面接指導を実施し、受験に備える。 	5	12月中に内定100%の目標に達成した。今年度は求人数も多く、1度目で多くの生徒が内定を得たが、連続して不調(不合格)になる生徒も数名出た。今後、能力・適性について、指導助言を含め、的確な就職指導が必要である。
	キャリア教育の充実	進路目標に向けた生徒の取り組み	自覚を持って進路目標へ向けて努力する生徒を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、進路研究に対する指導を強化する。 1年次よりライフプランニング教育に取り組み、生徒の進路選択に活かす。 	3	年度当初の計画が、熊本地震と外部団体の予定変更で取り組めなかったり遅れたりした。しかし、2学期以降に校内各種行事との調整を行い、年度内に何とか例年に近い取り組みが実施できた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	遅刻生徒の根絶	時間を守ることの大切さを理解させ、遅刻者、0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校指導において指導の徹底を図る。 学年、担任と連携し、遅刻者への個別指導を行う。 	3	朝の登校指導による成果がみられ、減少傾向にある。課題としては、遅刻生徒の固定化があげられ、学年と連携をもち、個別指導おこなっている。
	交通安全意識の確立	交通事故件数の減少	加害被害とも、交通事故の件数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「交通安全講話」を実施し、その危険性を理解させる。 生徒集会やHRを通じて指導を行い、安全意識を高める。 危険個所については、登下校指導を行い、具体的に指導する。 危険個所の登校指導を行い、具体的な指導を心がける。 	4	随分と良くなってきているとの評価もいただくが、まだまだ軽度ではあるが接触事故やマナーに対する苦情も多い。今後も交通安全教室等を通じ、安全意識の高揚、危険予測、交通マナーの遵守に努めさせ、交通事故防止(事故件数0)に繋げていきたいと思う。
人権教育	他者を思いやる人権感覚の育成	いじめの根絶	良好な人間関係を構築させ、いじめを根絶する。また様々な差別について学習し、人権感覚をみがく。	<ul style="list-style-type: none"> 担任面談や教育相談を充実する。 「心のアンケート」やその簡易版を実施し、早期の把握に努める。 いじめ根絶に向けた標語等を募集し、生徒の意識高揚を図る。 人権教育LHRを充実させる。 	3	「心のアンケート」を通していじめの実態を早期に把握できた。深刻な状況に至る前に取り組めたり、注意して見ていかねばならない事案も把握できた。また、人権メッセージを全校生徒で提出するなどの取り組みができた。今後、さらなる啓発活動を通して工夫を凝らし、他人を思いやる気持ちが身につくように導いていきたい。
開かれた学校づくり	地域との連携と協力	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の公開 ボランティア活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民の来校数を増加させる。 地域主催の諸行事にボランティア参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を設け、気兼ねなく来校していただく機会とする。 地域行事へ参加し、ボランティア活動を行う。 定期的に清掃活動を行い、地域に貢献する。 	4	ボランティア活動や地域での学習活動など地域での諸活動はよく協力できており、地域からも一定の評価を得ている。今後も活動を継続したい。授業公開時の来校者については、主に保護者の参加をいただいたが、まだ数は少ない。より一層、周知を図り、授業公開に努める必要がある。

4 成果と今後の課題

交通安全教育を推進しているが、自転車事故は頻発しており、軽微な事故であっても気が抜けない状況にある。警察や交通安全協会などと連携して啓発活動を継続する必要がある。進路指導においては、熊本地震の影響が懸念されたが、12月末に就職希望者全員の内定を実現した。進学については、AO入試、推薦入試を利用した進学が大半であるが、多様な進路希望にこたえる体制づくりも必要である。地域との連携については、地域行事への参加のほか、震災においても多くの生徒がボランティア活動を行った。部活動、生徒会活動、各種コンクール等においても地道な取り組みが行われており、教育的効果も高く、生徒の成長に繋がっている。しかし、学力向上や学習時間の確保については課題が残されている。学習に対する取り組みについては目標値に遠い状況にある。学力向上検討委員会等で組織的な取り組みを行う必要がある。